

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3070104538
法人名	医療法人 潤生会
事業所名	たかまつグループホーム
所在地	〒和歌山県和歌山市西高松1丁目5-36 (電話) 073-428-0617

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年2月6日
評価確定日	平成21年3月18日

【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 8 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150,000 円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有( ) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要( 12 月 8 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低 78 歳	最高 99 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮本医院・島本歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは和歌山市の中心部に近い幹線道路沿いで、商業地域に位置しています。母体である法人の医院と併設され、隣には法人の在宅支援センターがあります。「一人ひとりに愛情を込めて」を合言葉に、職員は理念とする利用者の尊厳を重んじ、職員本位のケアになっていないかを振り返りながら日々のサービスに活かしています。医療法人としての特性を活かした医療連携体制のもと、入居時より積極的に重度の利用者を受け入れ、またターミナルにも熱心に取り組まれています。職員をすべて常勤雇用とし離職者を防ぐことで馴染みの関係を保ち、利用者の今を大切に介護を実践され、利用者や家族にとって安全で安心できる「家」となっています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ケアプランをコピーした物を手元に置き、職員が情報を共有しながらケアにあたる等、具体的な改善に取り組まれています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は白紙の用紙を職員に埋めてもらい、管理者が取りまとめて作成され、出来上がった自己評価票は職員間で回覧されています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に一度、利用者、家族、地域包括センター職員、民生委員、職員等が参加して開催されています。会議ではホームからの報告がなされる他、会議の際に消防訓練を開催したり、グループホーム連絡会の取り組みについての説明等、参加者からの意見や情報を得る良い機会となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に一度の家族会の際や来訪時、電話にて家族から直接意見を聞いています。また家族が意見を言いやすいように、玄関に意見箱を設置したり、書面にて外部機関を掲載しています。出された意見は、会議の際職員で話し合い対処され、内容については家族に伝えています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人として自治会に加入し、近隣の方が季節の花をホームの花壇に植えてくれたり、高校生の職業体験の受け入れをしています。併設のデイケアにボランティアが来てくれる時には一緒に参加したり、地域の幼稚園長に働きかけ運営推進会議の出席や、交流を予定しています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時に職員と法人で話し合い作られた理念は、「一人ひとりに愛情をこめて」を基本とし作成された。理念には地域密着型サービスとしての思いも込められており、職員や外部者からも見えるように、玄関と事務室に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の際に、職員間で理念についても確認し合っている。管理者は利用者の重度化が進む中、スタッフ本位の介護になっていないかを常に職員に問いかけ、理念を日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として自治会に加入している。近隣の方が季節の花をホームの花壇に植えてくれたり、高校生の職業体験の受け入れをしている。併設のデイケアにボランティアが来てくれる時には一緒に参加している。また地域の幼稚園長に働きかけ、運営推進会議への参加や交流を予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果をケアプランをコピーした物を手元に置き、職員が情報を共有しながらケアにあたる等、改善課題について取り組んでいる。また今回の自己評価票は白紙の用紙を職員に埋めてもらい、管理者が取りまとめて作成され、出来上がった自己評価票は職員間で回覧されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一度、利用者、家族、地域包括センター職員、民生委員、職員等が参加して開催されている。会議ではホームからの報告がなされる他、会議の際に消防訓練を開催したり、グループホーム連絡会の取り組みについての説明等、参加者からの意見や情報を得る良い機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には法人担当者が申請や議事録を持参し面談している。また管理者は日頃から、何か問題や質問があれば電話等で市担当者に相談するなどしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の暮らしぶりや預かり金の収支報告が記載された個人毎のホーム便りを作成し郵送している。その際、毎日の様子が書かれた介護記録と一緒に同封している。また家族の来訪時にも報告し、遠くの家族には利用者と共に電話で様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、敬老会の際に家族会を開催したり、来訪時や電話にて家族から直接意見を聞いている。また家族が意見を言いやすいように、玄関に意見箱を設置したり、書面にて外部機関を掲載している。出された意見は、会議の際に職員で話し合い対処され、内容については家族に伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はほとんど無く、法人では職員全員を正規雇用とし、離職を防ぐ努力をしている。また管理者は年に2回職員との個別懇談会を設け、悩みや相談に乗っている。シフトも職員の希望に添うように工夫され、新任の職員には管理者がついて慣れるまで日勤で勤務し利用者との関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡会等から情報を得て、職員の習熟度に応じた研修に参加している。外部研修後は報告書を提出し、会議等で伝達研修を行い、資料も閲覧している。ホーム内でも会議の際に、ケアや医療面での勉強会を行ない、スキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2か月に一度開催される県グループホーム連絡会に出席し、意見交換や交流を行なっている。また職員相互の見学や交換研修を通じて他のホームとの交流を図り、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の法人の病院からの入居者が多く、家族に見学に来てもらったり、こちらから病室や自宅に何度か出向き、本人や家族と話す機会を持っている。入居後も家族の応援を受けながら、徐々に慣れてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の下ごしらえの方法を教わったり、ケアの際に利用者からねぎらいの言葉をかけてもらうこともある。一緒に昔のテレビを見たり思い出話をして懐かしむなど重度化が進む中、表情が乏しくなりつつも、利用者の笑いが職員の喜びにつながっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の単語を拾い集めて職員で話し合い、センター方式のアセスメントを活用し思いの把握に努めている。言葉がでない利用者には、常に声かけをし、表情や態度から思いを受け止めている。アセスメントシートは家族記載の物と職員記載のものを利用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントをもとに家族の希望を聞き、カンファレンスで話し合わせ、職員の思いや気づきが反映されたケアプランを作成している。必要時には主治医の意見も聞いて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化する毎に、ケアチェック表を利用し評価を行ない、見直しされている。その際、プランを職員個々に記入してもらい、会議で検討している。変化が見られる場合はその都度会議を開き見直しを行っている。ケアプランはいつでも見られるようコピーし手元に置き、日々のケアに当たっている。ケアプランを実施したことについて介護記録へ連動しての記載が少ない。	○	ケアプランと日々のケアにブレが生じないためにも、ケアプランと連動した介護記録となるように記入方法を検討され、見直しに活かされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、家族の希望による訪問看護の受け入れ、併設病院の協力のもとでの医療処置を受けながらの生活の継続、併設デイケアでのレクレーションやボランティアの行事に参加等、利用者・家族が安心できる支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病棟からの入居者が多く、全員が母体である病院を主治医としている。毎週併設病院での受診があり、歯科は必要時に受診している。24時間医療連携体制が整い、主治医とはいつでも連絡可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしてはターミナルを受け入れる方針で、契約書にも指針を記載し、同意を得ている。入居時より、重度の利用者を積極的に受け入れており、法人の協力のもと家族や主治医、職員と話し合い、利用者にとって一番良い方法でケアが出来るように支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	おむつ交換が必要な利用者がほとんどであるが、プライバシーには配慮している。管理者は言葉かけや対応に問題がある職員を見かけたら、その場で注意したり個別に呼んで注意をしている。個人の記録は事務所の棚に保管している。	○	個人情報容易に他人に見られない配慮が必要であり、出来れば鍵がかかる場所に保管されることが望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どんな時でも介助が必要であるが、起床や就寝時には個々に声かけし、無理強いくことなく希望に添って介助している。家族の協力で外出したり、畳コーナーで昼寝をしたりと希望に添った支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが利用者の希望を聞きながら1週間の献立を立て、時々利用者と一緒に食材の買い物に出かけている。一緒に出来ることは少ないが、野菜の皮むきや食後のお盆拭きを手伝っている。職員は利用者に常に声かけしながら食事介助し誤嚥を防いでいる。そのため食事は後から利用者と同じものを食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1度の支援を心がけており、毎日風呂の準備をしている。大体午前中に入浴されているが、希望すれば毎日や午後、夕方入浴も可能である。拒否がある利用者には主治医や家族に協力してもらい、入浴を促してもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お盆拭きや洗濯たたみ等を手伝ってもらっている。デイケアに出向き、カラオケやレクレーションに参加し交流を図ったり、毎月のお誕生会を楽しみにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に散歩や食材の買い物に出かけている。また花見や弁当持参で和歌山城に出かけたり、デイケアの車を借りてドライブに出かけたりしている。行けない日は玄関前に椅子を出して日光浴をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは街中の幹線道路沿いに位置しており、防犯のためや家族の希望もあり、外扉は開錠しているが、内扉は施錠し、センサーで管理している。施錠については家族と同意書を交わしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回予定し、1回は消防署指導のもと、夜間を想定して法人として避難訓練を開催している。1回はホーム独自で運営推進会議の一環として開催し、民生委員にも参加いただき、後の会議でも報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎日の食事量と水分量は記録に残している。また嚥下能力の低下に伴い、利用者の状態に応じて、ミキサー食や刻み、お粥等で提供している。栄養バランスやカロリーについては定期的に法人の栄養士に献立を見せ、アドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく陽が良く入り、壁面を畳コーナーや多目的ルーム設け、利用者が昼寝をしたり、座ったりして自由に寛げるスペースを確保している。食卓テーブルは車椅子が入り込めるような形状で食事がとりやすい工夫がなされている。	○	1日中家の中で過ごすことが多い利用者が、季節を感じることが出来る共用空間づくりを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドやポータブルトイレ、籐の椅子、家族の写真やアルバム、使い慣れた品を自宅より持参され、居心地良くしている。またベッドからの転倒防止のため、マットを何枚も重ねて敷き、危なくない工夫をしたり、床に直接布団を敷いて休んでいる利用者もいる。		